

ひので映画大使最新版

第32回映画大使「北のカナリアたち」

期 日 平成24年10月23日(火)
場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

小学校の教師・川島はる(吉永小百合)は、北海道の離島にある、生徒が6人の小さな分校に赴任する。生徒達に合唱を教え、心を通わせていくが、ある日衝撃的な事件が彼らを襲う。それが元で島を離れたはる。それは生徒の心にも深い傷を残す事となる。

20年後、東京で暮らすはるに、生徒の一人が起こした事件の知らせが届く。真相を知るため、北海道へ向かうはるだが、再会した生徒達の苦悩を知り、また自身の苦悩とも向き合う事となる…。

「告白」の湊かなえの「往復書簡」の一遍「二十年後の宿題」を原案に、衝撃と感動のストーリーを柴田恭兵、仲村トオル、宮崎あおいら、豪華キャストで描く！



(C)「北のカナリアたち」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えます。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

▶ 映画大使の「第一声！」

吉永小百合さんの美しさに魅了！

それぞれのストーリーが結びつき、ラストは大感動！

先生と生徒の絆、仲間の絆、夫婦や親子の絆に涙…

豪華キャストで、見応えあり！



▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

吉永小百合さんの素晴らしさが際立っていましたね。湊かなえさんの作品らしく、一つ一つのストーリーが繋がって全体が見えるという展開で良かったです。

Bさん

歌の素晴らしさを感じました。人はどんなにつらくても、「生きた歌」を唄えるんだと感動しました。最後の最後で物語が結実する展開が湊かなえさんらしかったですね。上手く映画化していたと思います。「人っていいな」と思える作品でした。

Cさん

広い意味でこの作品はロードムービーだと思いました。テーマが「贖罪」でサスペンスタッチでしたが、生徒の心にある「罪」を先生が洗い流していく中で、先生自身の「罪」も癒されていく展開で、仲間の素晴らしさを感じました。

Dさん

重くて、暗いテーマでしたが、爽やかさもあり、とても見応えがありました。皆「罪」を背負ってるんだけど、悪い人はいなくて、人間の深みや重み、素晴らしさを感じました。展開も良かったし、俳優さんが皆魅力的でした。吉永小百合さんと仲村トオルさんのキスシーンでは、撮影後、小百合さんはトオルさんが帰る時に、恥かしくて見送れなかったというエピソードを聞きました。小百合さんの若さと純粋さを感じるエピソードでした！

Eさん

40歳代も演じている小百合さん。全然違和感がありませんでした。秘めた過去があっても、20年という歳月が経ったからこそ、その想いを話せたり、纏っていた糸をほどいてくれたのかなと感じましたし、人間てそういう事があるんだなとつくづく思いました。どんなに辛くても生きなくてはいけないというメッセージが響く作品でした。

Fさん

小百合さんが不倫を？と思いましたが、それぞれの苦しみがあった中での話だったんだなと思い、理解できました。子役と若手の俳優が似ていましたね。そういう所も楽しかったです。演技も上手でした。利尻など北海道の最北の景色が素敵でした。

Gさん

重い心の情景が描かれていて、湊さんらしかったです。その心の情景が、どんなに苦しくても生きていくというメッセージを厳しい北海道の情景と照らし合わせて描いているのかなと思いました。空白の20年間だったけど、一人一人心の中にずっと先生がいたんですね。重くてどうなる事かと思いましたが、良かったです。子供の歌が心に響きました。

📌 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

- ・一人一人の目線から描いて、一つにまとめていくという、湊かなえさんらしい描写が本作でも上手に描かれていましたね。
- ・気持ちとか、その重みを書く作家さんて、自分自身もそういう経験がないと書けないんでしょうかね？
- ・人を見る洞察力が優れているのではないのでしょうか。
- ・皆が罪を背負っていましたが、それぞれが誰かを守るための罪だったから、観ていて爽やかだったんでしょうね。思うが故に封印していたというのもあるんでしょうね。
- ・子ども達の合唱シーンは本当に素晴らしい歌声でしたが、あれは、子役の子達が本当に歌っていたのかな？
- ・柴田恭兵さん演じる夫は、病気でしたが、辛い状況の中で自分を見失うシーンは辛かったです。妻の幸せを本当に考えていましたね。
- ・吉永小百合さんは68歳には見えません！泳ぐシーンもありましたね。雪が似合う女優さんです。
- ・川井郁子さんの音楽も良かったです。オープニングのバイオリンが良かった。
- ・北海道の夏と冬のシーンが対照的でした。

📌 まとめ

今作は、「告白」などの湊かなえさんの原案という事で、ヒューマンサスペンスの趣きがありました。実際、その流れで展開していくのですが、「人間の絆」が強く強調されており、また、「歌の持つ力」が生きる力にもなるという事も描かれて、やがて感動のクライマックスを迎えます。大使の方も言っていましたが、「人間て素晴らしい」という事を正に実感できる作品でした。

今回は試写会にて開催しました。11月3日(土)より公開されます！ワーナーマイカルシネマズ日の出にて是非、ご鑑賞ください！！

➡ [関連ページ: これまでのひので映画大使](#)

➡ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ページトップへ](#) ▶